

「計画元年」。各分野でスタート
 今年度は、市のさまざまな計画などを策定する「計画元年」。総合計画、公共交通、環境など各分野における検討が始まりました。

市では今年度を「計画元年」とし、市民との協働のもと、今後の安曇野市のまちづくりの方向性を示す各分野の計画や方針などの策定を進めています。
 □ 市政の中心となる総合計画を検討する安曇野市総合計画審議会が7月5日、堀金総合支所会議室で開かれ、平林市長が計画策定について諮問しました。



糸長浩司会長に諮問書を手渡す平林市長
 □ (第1回総合計画審議会)

□ 総合計画は、新しいまちづくりを総合的にかつ計画的に進めていくために、「安曇野市まちづくり計画」との整合性を図るとともに、新たなニーズを踏まえて策定するものです。

□ この日は、民間諸団体の代表や各地域審議会委員、学識経験者や公募の委員など24人に委嘱書が交付されました。また、会長に日本大学教授の糸長浩司さん、副会長に市教育委員長の望月昭彦さんが選ばれました。今後は、市民の皆さんの声をより反映するため、市民意向調査や市民会議を行い、平成18・19年の2カ年を掛けて計画の策定を進めます。

□ このほか、環境基本計画、地域福祉計画、障害福祉計画や健康づくり計画などの策定に向けた委員会が発足しました。また、安曇野赤十字病院建設の支援の在り方や公共交通システム構築のための検討会も始まっています。

総合計画 安曇野市民会議 参加者を募集します

市では、総合計画策定に広く市民の皆さんに参加していただくため、安曇野市民会議を開催します。この会議は、市民と行政が協働して取り組む安曇野市のまちづくりについて話し合います。そこで、安曇野市のまちづくりを担う参加者を募集します。

- 活動期間 10月～12月（月2～3回程度開催）※第1回日は10月15日（日）の午後1時30分から開催
- 活動内容 まちづくりに関する6分野（行財政防災・市民環境・健康福祉・産業観光・都市基盤・教育文化）に分かれ、ワークショップ形式で検討し、その結果をまとめ市長に提言します。
- 参加要件 ①市内に在住するか勤務する満20歳以上の人②まちづくりに関心のある人
- 募集人数 先着30人程度
- 募集期限 9月22日（金）※郵送は、締切日「必着」
- 応募方法 各総合支所地域支援課に備え付けの「参加応募申込書」（市ホームページでもダウンロード可）に記入の上、持参、郵送、Eメールのいずれかで応募してください。
- 選考 募集定員を大きく超えた場合は、申込書をもとに書類選考します。選考結果は全員に通知しますが、選考結果に対する異議・内容照会は受け付けません。
- 応募先・問い合わせ 〒399-8205 安曇野市豊科4932-46 県安曇野庁舎内4階安曇野市役所企画財政部企画政策課（TEL 71・2000） Eメール ki-kikaku@city.azumino.nagano.jp

豪雨災害

記録的豪雨、市内各地につめ跡
 7月16日から降り始めた大雨で、市内各所で被害が発生しました。



犀川の水位が危険水位4.13mを超え、5.78mまで達し、家屋が浸水(明科:小泉地区)

□ 7月の活発な梅雨前線の影響で、長野県内では、各地で記録的な大雨を記録しました。

□ 市内では、人的な被害はなかったものの、犀川の水位が上昇し、危険水位を大きく超えたため、明科地域の小泉・荻原・木戸地区に避難勧告が出されたほか、市内全域で道路の冠水や農業用水などに土砂が流れ込み、田畑や民家が浸水するなどの被害を受けました。このほか、市内の登山口に通じる林道も土砂崩落などが発生し、三

股登山口と一の沢登山口は仮設歩道が設置され、徒歩でのみ通行可能となっております。(8月7日現在)

□ また、復旧に向けた活動も始まっています。犀川の増水で、濁流により冠水した明科地域の親水公園「水辺の楽校」では7月30日、同公園を普段から管理する市民の皆さんの声掛けで、ボランティア清掃が行われました。市内外から約300人が流木の撤去やごみ拾いなどの作業に取り組みました。



本格的な登山シーズンを迎え、影響が心配される(堀金:林道烏川線)

安曇野市主な被害状況

- 被害総額：7億9,681万円
(平成18.8.3現在)
- 避難勧告：18世帯55人
- 床下浸水：2世帯8人
- 消防団員出動：約500人



白鳥遊水池やマレットゴルフ場などがある明科・水辺の楽校は、濁流でほぼ冠水した



市民の皆さん300人がボランティア清掃に参加(明科:水辺の楽校・7月30日)

地域防災計画の策定に向け、会議がスタート

地域防災計画の策定に向けた第1回安曇野市防災会議が7月27日、豊科総合支所で開かれました。

□ 同計画は、地域における災害予防、応急対応、復旧・復興などの対策を旧5町村の計画をもとに、検討し直し来年3月までに策定する予定です。この日は、行政、警察、消防、通信、病院関係者など21人が委員として出席し、市から人的・経済的被害を軽減する対策の充実、防災機関との緊密な連携で人命を守るなどの防災の在り方に対する基本方針が説明されました。今後は、秋までに素案が提出され、策定に向けた協議が行われます。

■問い合わせ 豊科総合支所内防災交通課 (TEL 72・3111)